歴史散歩

れきしさんぽ No.45

小早川・田中の時代をたずねて

九州の戦国時代が終わりを告げてから、天下泰平の世を迎える有馬氏の久留米入城前夜、筑後・久留米の地は小早川秀包（こばやかわ ひでかね）、次いで田中吉政（よしまさ）・忠政（ただまさ）によって治められました。その 30 年余りの間に、城下町久留米の原型や統治の仕組みが整えられ、久留米藩・有馬氏の時代に継承されていきます。

近世久留米の幕開けとなった小早川・田中の時代をたどり、そのゆかりの地を訪ねます。

小早川の時代

天正 15 年（1587）、豊臣秀吉が大軍とともに九州に攻め入り、最後まで抵抗していた島津氏を降伏させ、九州を平定しました。秀吉の領地分配によって、筑後国では山本郡全郡と御井（みい）郡・三潴（みづま）郡の各一部が、小早川秀包に与えられました。久留米城主となった秀包は、領内統治を進めるとともに、二度にわたる秀吉の朝鮮出兵に出陣しました。この間、中世以来、根強い勢力をもつ草野氏を滅ぼし、高良山座主を殺害するなど、領内支配のため強権をふるう一面もありました。

小早川秀包（1567 ～ 1601）　中国地方の大名・毛利元就（もうり もとなり）の 9 男。天正 7 年（1579）、兄・小早川隆景（たかかげ）（元就 3 男）の養子となりました。同 11 年羽柴（豊臣）秀吉のもとに人質として送られ、秀吉より「秀」「藤」の字を受け「藤四郎秀包」と名乗ります。同 13 年、四国攻めの戦功により、伊予国宇和郡 3 万 5 千石を与えられました。翌 14 年、九州攻めの緒戦では、中国勢が豊前方面に動員され、秀包も各所に転戦し、功をあげました。この頃、黒田孝高（よしたか）（官兵衛（かんべえ）・如水（じょすい））の勧めでキリスト教に入信しています。同 15 年には、秀吉の媒酌で大友宗麟（おおともそうりん）の娘と結婚しました。彼女は熱心なキリスト教信者でした。

①小早川神社（久留米城跡・篠山神社境内）

小早川時代、久留米城本丸は現在の久留米大学医学部グラウンド付近で、小笹山を背にし、大手門は東向きだったといいます。現在、篠山神社境内（有馬時代の本丸の跡）に小早川神社があります。秀包を祀るその祠には、キリスト教で用いられる十字架をシンボルにしたアンドレアス十字が刻まれています。

また、小早川時代の城下には教会があり、約 7,000 人の信者がいたといいます。

小早川神社

②八ツ墓跡

天正 19 年（1591）、秀包は高良山座主麟圭・良巴父子を久留米城に招き、酒宴を終えて城を出たところで家臣に襲撃させ、殺害しました。高良山へ逃走する麟圭家臣８名が討死した場所には墓碑が建ち、「八ツ墓」と呼ばれました。現在の西鉄久留米駅北方の日本生命ビル（久留米市東町）の裏手にあたります。墓碑は、ビル建設に伴い、昭和 55 年８月に医王寺境内（寺町）に移されました。この地を東西に走る道は、中世にさかのぼり、東に向かえば、高良山方面につながります。

八ツ墓跡

田中の時代

慶長５年（1600）関ヶ原合戦で、西軍に属し敗れた小早川秀包らに代わり、東軍で戦功を挙げた田中吉政が筑後一国の領主として柳川城に入りました。吉政は政治・軍事に優れ、土木・治水に通じ、積極的に領内支配政策を進めました。大名親裁のような吉政の政治体制は、吉政の跡を継いだ忠政の治世では、官僚的な奉行体制へと移行することとなります。

吉政・忠政の時代には、善導寺や大善寺玉垂宮など、戦国時代に荒廃した寺社への寄進、堂社の再興も行われました。

田中吉政（1548 ～ 1609）　吉政は、近江国（滋賀県）に生まれました。始め北近江の戦国大名浅井長政の家臣宮部継潤に仕え、後に織田信長へ転仕して羽柴（豊臣）秀吉の配下に入ります。本能寺の変で信長が没し、秀吉の時代になると、豊臣秀次の宿老筆頭を務めるとともに、三河国岡崎城主となりました。

関ヶ原合戦では、徳川家康率いる東軍に与して勝利し、さらに敵軍の将である石田三成を捕縛するという功績を挙げました。戦後の論功行賞により、吉政の領地は三河岡崎 10 万石から筑後一国 30 万石余へ大幅に加増されました。

③柳川往還（田中道）

吉政は柳川城を本城とし、領内各地の支城との間で、人や物資の移動を効率的に行うため、領内の交通を整備しました。特に、柳川城と領内第２の拠点である久留米城との間には、幹線道路を新設しました。有馬時代には、「札ノ辻」（通町１丁目付近）が柳川往還の起点となりました。そこから 100mほど南にある旧久留米市図書館西分館前（三本松町）で、柳川往還の道筋の名残である縁石と、戦後付け替えられた現在の道路を比較して見ることができます。なお、現在の県道 23 号は、田中道を継承したものです。

札ノ辻跡

また、吉政は柳川往還沿いに「町」を設け、「市」を立てました。のちに人々は吉政の威徳を偲んで、吉政を祀る神社や祠を建立しま

す。それぞれ移転したり、合祀されたりしながら、現在に至るまで旧柳川往還沿いに伝わっています。市内では、津福（つぶく）八幡神社（津福本町）の境内に田中神社の祠が建っています。また、安武（やすたけ）八幡神社（安武町）には、田中神社を合祀しています。

④田中吉政供養塔

吉政は、慶長 14 年（1609）に江戸へ向かう途中、伏見（ふしみ）（京都府）で死去しました。享年 62。吉政の遺骸は真勝寺（柳川市）に埋葬されましたが、善導寺（善導寺町飯田）にも供養塔が建てられます。

善導寺は戦国時代、大友氏配下の戸次道雪（べっきどうせつ）の兵が修行僧を殺害し、堂宇を焼亡させました。関ヶ原合戦に際しては、黒田如水によって再び諸堂が破壊されました。その直後に筑後一国の領主となった吉政は、善導寺の復興に尽力し、その跡を継いだ忠政は、徳川家康廟を建立しました。その墓石が境内に現存しています。

⑤田中則政（のりまさ）供養塔

善導寺境内の吉政供養塔から少し離れて、吉政二男・則政（吉信（よしのぶ））の供養塔も建てられています。柳川城を居城とした吉政は、則政を久留米城の城主とし、その他の支城には家臣を置きました。このことからも、田中領における久留米城の重要性がうかがえます。則政の没年には、慶長 11 年（1606）、同 15 年の２説があります。

田中神社（津福八幡神社）

田中吉政供養塔

田中則政供養塔

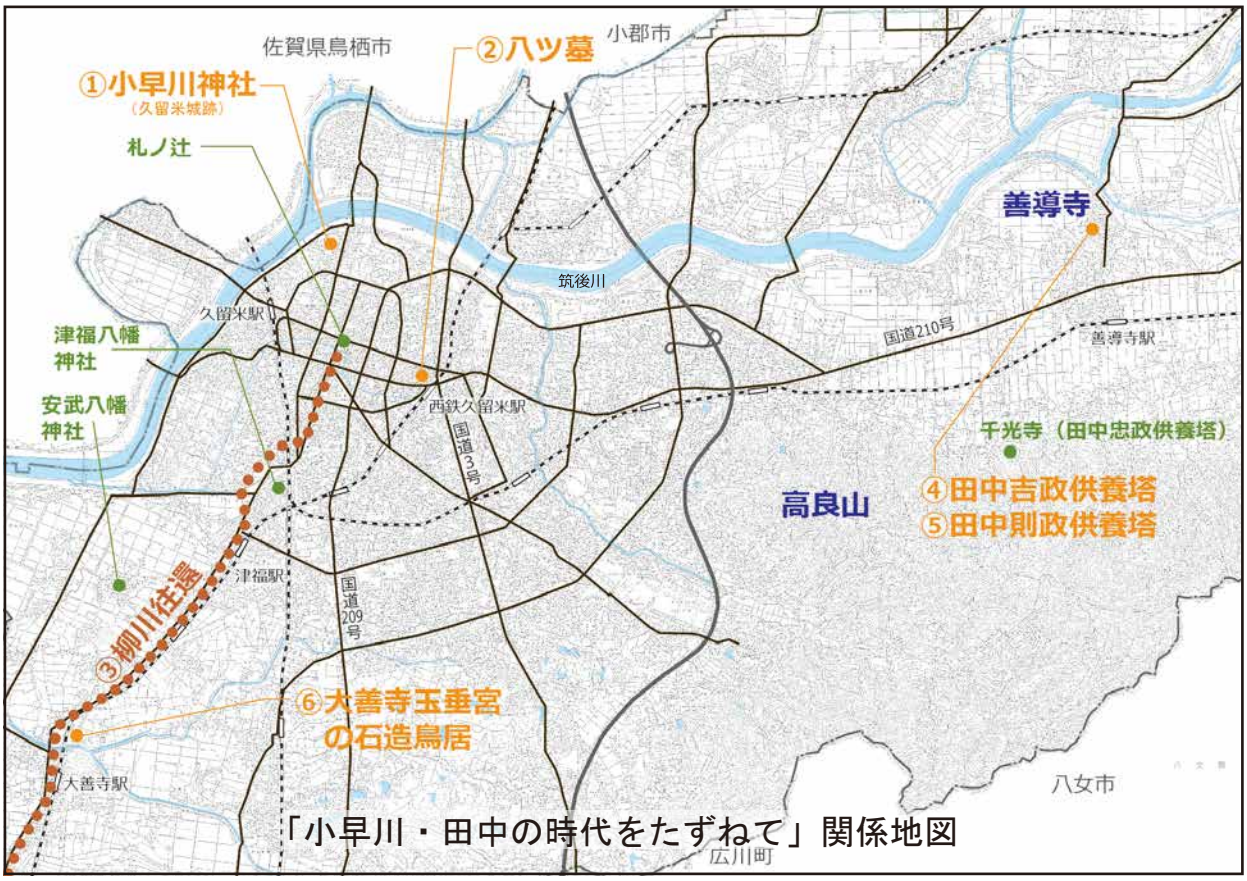
⑥大善寺玉垂宮の石造鳥居

吉政は慶長６年（1601）に寺領 300 石、慶長９年に鐘を寄進するなど、大善寺玉垂宮を手厚く保護しました。表参道に立つ鳥居は、吉政の四男で、筑後一国の領主を継承した忠政によって、元和４年（1618）に造立されました。向かって右柱に「国主田中筑後守橘朝臣忠政」、左柱に「筑後国三潴郡下荒木村願主田河七郎左衛門尉、同苗□左衛門尉」「元和四季仲春日」の銘があります。この鳥居は、市内では県指定文化財である慶長 12 年の北野天満宮の石造鳥居に次いで古く、建立以来 400 年余を経ており貴重です。現在、久留米市有形文化財に指定されています。

大善寺玉垂宮の石造鳥居

慶長 14 年（1609）の吉政死去に伴い、筑後一国の領主を継承した忠政も、元和６年（1620）に病没します。享年 36。遺骸は江戸の吉祥寺に埋葬されたといいます。国元では千光寺（山本町）に供養塔が建てられました。

忠政に後継ぎとなる男子がなかったため、田中家は断絶し、筑後国は一旦、江戸幕府に接収されることとなりました。その後、北筑後 21 万石の大名として久留米城に入るのが、有馬豊氏です。



「小早川・田中の時代をたずねて」関係地図

歴史散歩No.45　小早川・田中の時代をたずねて　令和４年３月31日発行
編集:久留米市 市民文化部 文化財保護課　住所:〒830-8520　久留米市城南町15番地３
電話:0942-30-9225　　FAX:0942-30-9714　E-mail:bunkazai@city.kurume.fukuoka.jp